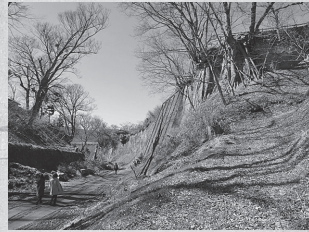


## 【小諸城址 懐古園の歴史年表】

天文23年 (1554年)	武田信玄は、佐久・小県郡の支配拠点として小諸城を整備。
天正18年 (1590年)	小諸城主となった仙石秀久の手によって、城の大改修が始まる。
慶長6年 (1601年)	大手門（四の門）の屋根が瓦葺になる。
慶長18年 (1613年)	大手門（四の門）二階建てを建造する。
元和元年 (1615年)	仙石忠政が三の門、足柄門を建造する。
寛永の初め (1628年)	小諸城天守落雷により焼失。
寛保2年 (1742年)	「戊の満水」により三の門流失。
明治4年 (1872年)	廃藩置県。
明治13年 (1880年)	旧小諸藩士が本丸跡に懐古神社を祀り、「懐古園」とする。



↑空堀  
市営動物園と小諸城・懐古園の間にある木谷とよばれる空堀



↑この扁額は、徳川宗家16代当主の徳川家達の筆によるもの。

小諸城の前身は、大井氏が中沢川のほとりに築いた「鍋蓋城」であるといわれる。佐久と武田氏が掌握して以降、約30年間、武田氏の城代が入り、城を整備した。天正19年（1591）仙石秀久が小諸城主となると、城の大改修と城下町の整備に取りかかり、現在の姿となる。

# 慶長5年（1600） 「第二次上田合戦」の幕開け そのとき、小諸城は？



←二の丸跡  
徳川軍が本陣を置いたとされる場所



←犬伏の別れ  
真田家が生き残るために行った家族会議

小田原合戦で豊臣秀吉が天下統一を果たし、戦国の時代が終わる。しかし、秀吉が病に伏せるようになると、徳川家康が政権を掌握していき政権内の対立が生まれ、「関ヶ原の戦い」に発展していく。

小諸城は、戦の中で複数回にわたって本陣として使用される。第二次上田合戦では、徳川秀忠軍の本陣として、3万8千の軍勢の拠点となった。

## 【第一次・第二次上田合戦の出来事】

天正10年6月 (1582年)	本能寺の変で織田信長死亡。信濃の領有をめぐり、徳川、北条、上杉が争う。(天正壬午の乱) 真田は徳川方。
天正10年	天正壬午の乱終結。
天正11年 (1583年)	上田城築城に着手。
天正13年 (1585年)	真田、徳川から離反。同年8月、第一次上田合戦。前哨戦は徳川勢が小諸城に着陣したところから始まる。
天正18年7月 (1590年)	豊臣秀吉が天下統一を果たす。
慶長3年 (1598年)	秀吉死去。
慶長5年7月~8月 (1600年)	徳川家康、会津上杉征伐に向かう。この隙について石田三成が拳兵する。犬伏の別れ。
慶長5年7月	真田昌幸（父）と幸村（子）が西軍の石田三成方に従う。徳川軍は二手に分かれ、徳川秀忠率いる3万8千の軍勢は、真田父子の討伐に向かう。
慶長5年 9月2日	徳川秀忠、小諸城着陣。
慶長5年 9月6日	第二次上田合戦。
慶長5年 9月15日	関ヶ原の戦い 戦いは、徳川軍の勝利で幕を閉じる。